

眉山活性化基本方針策定 眉山活性化委員会(第1回)

議事録(要約)

開催日時 令和6年10月8日(火) 午後1時から

開催場所 眉山海月(徳島市八万町中津山3-70)

- 議 事
- (1) 開会
 - (2) 副市長挨拶
 - (3) 委員・事務局紹介
 - (4) 設置要綱と組織体制[事務局から資料1に基づき説明]
 - (5) 眉山未来プロジェクトについて[事務局から資料2に基づき説明]
 - (6) 眉山活性化基本方針の策定について[事務局から資料3に基づき説明]
 - (7) 閉会

出席者 ・委員10名(山中会長、瀬尾副会長、青木委員、柏原委員、近藤委員、齋藤委員、酒井委員、内藤委員、長谷川委員、渡辺委員)
・事務局他

【会議の内容】

(会長)

ご質問やご意見を伺いたい。

(委員)

強みでは景観があげられており、弱みではうっそうとした木々でそれが阻害されていると出ているが、これは官地ではなくて、民地があることによりなかなか伐採できない状況にあるのか。予算的な問題があるのか、どのような状況にあるのか教えてほしい。また、民間企業にサウンディング調査を行っているが、将来的に民設民営での施設を誘致するなどを手法として考えているのか。

(事務局)

公園区域の木については、徳島市の土地がほとんどであるので、徳島市で伐採などの維持管理は可能である。ただ、野鳥観察小屋などの施設もあり、行き過ぎた伐採はなかなか難しい所もある。今回この会議の中で、より景観を見やすい形に、という話があげれば、今後の議論を踏まえながら、伐採ないし景観を重視した維持管理を進めていきたい。民間事業者の参加についても念頭に置きつつ、皆さんの意見を聞きながら議論を進めていきたい。

(会長)

公園の中であれば伐採しても支障はないということか。

(事務局)

はい。

(委員)

冒頭にもあったが、眉山には外から見ると中で楽しむという2つの側面があり、また地域の誇りや愛されている場所であるなど重要な意味を持った場所であると認識している。今回この眉山活性化委員会の中でどのように進めていくかはかなり重要な点となっている。説明資料11ページの中で、眉山を中心に、そこにいたるまでのルートはもちろんだが、今回の計画の中で、どこまでをエリアとして考えているのか。

(事務局)

公園緑地課としては、眉山公園を中心として考えているが、計画のエリアとしては眉山のふもとから眉山公園を中心として、文化的資源や寺社などもあるので、意見が出れば他部局も含めた専門部会でしっかりと議論を行い、公園緑地課で出来ないところは観光部門やにぎわいづくりの部門などと連携しながら進めていきたい。

(会長)

計画範囲としては、風致地区と公園のエリアということか。風致地区の周りにも施設があると思うが、風致地区としての眉山と西側の眉山海月からロープウェイまでいろんな施設が入っているのが眉山公園ということか。

(事務局)

はい。

(委員)

これからさまざまな議論を踏まえて進めていくと思うが、最後のページの「みんなが楽しむ、みんなでつくる、みんなをつなぐ」という基本方針、目標が掲げられている。この「みんなが楽しむ」というところはソフトのイメージだが、地元住民の方々や、観光客などを踏まえて考えていると思うが、今回の計画の完成形はどのような方々にどういう風を楽しんでもらいたいと考えているのか共有したい。

(事務局)

資料の説明の中にあった大滝山エリアは日ごろからウォーキングやランニングなどで利用されており、そこからは山頂への登山道もある。普段使いできるという点と、指摘のとおり観光客に滞在していただくという点もしっかりと見据えていかなければいけない。今後進めていくびざんミーティングの中でも普段使いという点と観光客をターゲットにした両方を見据えながら計画を立てていきたい。

(委員)

風致地区の規制があると、例えば駐車場が不足している場合にそれを広げたり、

あるいは別の場所に新設することに関するハードルが高くなるのか。

(事務局)

風致地区という制約はあるが、公園は都市施設になるので、公園内の施設であれば、風致地区の規制に縛られない形で一定の整備はできる。都市施設という強味を活かして出来ることを進めていきたい。

(会長)

公園の中には、民地もあるのか。

(事務局)

徳島市の土地が多いが、登山道などには民地もある。供用している公園区域はほぼ徳島市の土地になっているが、都市計画区域として、都市施設としての位置づけの部分には、民地も多く残っている。

(委員)

基本方針の中身について、例えば子育て支援では乳幼児の支援、就学前の支援などの段階があり、それぞれの段階で支援の内容は異なってくる。今回の基本方針の中で、どの程度具体的な内容や計画が含まれるのか。

(事務局)

これから行うびざんミーティングには、子育て世代や乳幼児がいる世帯の方もメンバーに加わっている。そういった方の意見も十分に聞き、専門部会の中でもしっかりと議論をしながら、基本方針の中に盛り込んでいきたい。

(委員)

資料を見たが、非常によく出来ており、問題点や強みなどいろいろ書かれているので、これを進めたらいい。こんなにも眉山に色んな施設があるのは、ここに来て初めて知った。すごく眉山が好きで、月に2回くらいは剣山神社に登っているが、徳島駅を降りて、眉山に登るための案内看板がない。本格的な登山を楽しめるルートなのに周知がしっかりと出来ていない。駐車場も必要ないくらい良いルートになっている。この資料の中にまとめられている内容を市がプロデュースしてどのように進めていくのか。八十八か所歩き遍路の石柱を女性会は建てている。この資料を見ると歩き遍路を歩けるような神社が眉山の周りにはたくさんある。これをどのように活用していくか等はこれからの取組になるのではないか。

(副会長)

思ったより眉山はかなり広く、さまざまな施設が点在しているが、山頂にまとまっている。色んな方向から海月など眉山公園に来るイベントをするなど、何かを始めないといけないと考えている。徳島駅を降りてからたくさんの眉山に登るルートがあるのに案内出来ていないという委員の指摘はもっともであり、眉山に着いたとしてもどこに行けばいいのか分からない。車で行くと東側、西側ともに坂も多く、ロープウェイは料金が高いという指摘もあるなど、アクセスの問題もある。これか

ら若い人たちにも参加してもらおうミーティングを行い、色々な世代の方たちの意見も聞いて、まずは何か一つからでも始めていく必要がある。最初の計画では、令和12年と先が長い話になっているが、出来ることからやっていくようなことを事務局には考えてほしい。

(委員)

昔は、眉山公園にはリフトがあり、乗るだけでも楽しみがあった。眉山山頂の焼き餅もありそれが楽しみになっていた。いつのまにかその焼き餅屋も無くなってしまっている。

(会長)

私のイメージとしても、資料の口コミ調査で出てきたように景観のイメージはあるが、何もないというイメージも持っている。福井のレインボーラインという有料道路とケーブルがある場所だが、かなりさびれていた。ここ3年ほどで民間の手が入り、とても活性化している状況である。一番最初に考えたのは天空のテラスとして、座って景観を楽しめる場所としてちょっとした飲み物を楽しめるようなテラスを整備し、時間を過ごせるような工夫をしている。一か所つくった施設から、どんどん景観を楽しめる色々なところに整備をし、木があって見えなかったら、デッキを作って小さなテーブルや椅子を設置したことにより客が増えている。眉山公園も同じく景観はしっかりしているので、それを楽しめるような場所を作り、時間を過ごせるような形が出来れば、色々なキャッシュポイントが出来てくると思う。何か買ったり、名物があればそれを楽しんで思い出になったりする。核としては、眉山公園の状況と変わらないが、福井のレインボーラインでは上にはカフェが増えたり、名物が出来たりしている。人が来て、時間を過ごしてくれるとキャッシュポイントが出来ようになる。ぜひ調べてほしいのはロープウェイに乗ってきた人が何分いたか、駐車場に止めた人が何分いたか、それを伸ばすのが重要なカギとなると思う。それが増えていくことで様々な施設の可能性が出てくるものとなる。さらに様々な施設が増えることでキャッシュポイントとなる。当然観光目的の方もいれば、ランニングや自転車で登る方もいる。そういう人たちにどのようなサービスを提供するか、海月さんがせっかくいるので、そこにどうつないでいくかはすごく重要である。その形がうまくいけば、色々な形で利用者が増えることになると思う。結構来ているのになぜか閑散としているのは、やはり滞在時間が短いと考えられる。景観はキラコンテンツだと思うので、それを楽しめる場所をしっかりと作ってあげることが大事である。邪魔になっている木の伐採や、ここの景色がいいからデッキを作るなど滞在できる工夫がある。ぜひ現地を見ながら、具体的な場所を検討してほしい。

(委員)

滞在という点で、非常に夏が暑くて7月8月は登れるような状況ではない。滞在するにしても冷暖房の設備がないと、長く滞在するのは難しい。そうするとハード

の整備になるのでお金もかかるし、常駐する管理者も必要となる。そういった点も含めた計画にすることが難しい点だと思う。

(会長)

最近はお金をかけずに木造の平屋で小さなカフェを作り、人が増えたら拡大していくといった手法もある。福井県の例では、最初は1棟だったが、そのような形でどんどん増えていった実績もある。

(委員)

今の会長の話を聞きながら、すでに成功している北海道の函館山や長崎の稲佐山、白馬など、どんどん人が増えている事例もある。活用していないところの景観を生かしたブランコを整備するなどしている。他の色々な情報を取り入れたうえで、眉山ならではのものを考える必要がある。その中で誰に楽しんでもらうのかは大事だと思う。もちろん住民の方も大事だが、お金を落としてもらおうという点では観光客のことも念頭に置かなければいけない。せっかく眉山海月も入っているので、しっかりとそこへの動線も考慮する必要がある。完成形のランドデザインがあって、眉山の目指す姿を示して、できるところから進めていくべきだと思う。それがないと、いいところばかり取り入れても、結果的に方向性が見えないものになってしまう。

(事務局)

当然ランドデザインは非常に大事になってくる。また、出来るところから進めていくことも重要だと認識している。ご提案いただいたカフェについても、来年度社会実験的にキッチンカーを導入するなど検討している。先程の夏場の暑さなどを避ける場所もなく、滞在時間に影響しているという認識もある。そういった課題や、どのような形であれば利用者が滞在するかという点についても、社会実験の中で検証していきたい。

(委員)

観光客の動き方について、駅前のホテルや観光事業者に聞いた。「翌日鳴門に行く予定」、あるいは「学会に参加して飛行機まで時間がある」など、徳島市内で半日程度過ごしたい方に眉山を紹介することが多いとのことだった。徳島市内で半日程度滞在できるエリアが欲しいという声は多い。観光客へのアンケートでも、イベントなどで徳島市に来て眉山に行った人が多いという結果が出ている。

(会長)

確かにやっている人は多いと思うが、そこでなにかをした、過ごしたという印象が少ないのだと思う。ぜひ滞在時間はKPIの一つになると思うので検証してほしい。

※KPI=重要業績評価指標

(委員)

全国色々行くが、観光客が多いところはトイレ整備をしっかりとっている。サービ

スエリアなどもそうだが、トイレがきれいなところを利用する傾向がある。お金をかけなくても内装やクロスなどで工夫は出来る。まずは衛生面の取組をお願いしたい。極端な話ロープウェイはタダでもいい。上の公園施設の収入で、ロープウェイの維持管理を行うのが理想的な形だと思う。下の阿波おどり会館を見直すなども一つだと思う。動線の移動料金を安くする工夫が重要だと思う。

(会長)

方向性を検討いただいてワークショップの中で検討を進めてほしい。われわれはLQC(Lighter,Quicker,Cheaper)というが、軽く、早く、安いものから進めていく、そうすることでどんどん人が集まってくると思う。やれることをとりあえずトライしていくことが出来ればと思う。具体的な場所を検討して、出来るところから進めていき徐々に人を増やしながら進めていただきたい。どのような目標像を描くか、共通理解を持ち、進めてほしい。

以 上